

最上地域の

農業水利施設と私たちの暮らし

— 農業水利施設のいろいろな役割 —



最上総合支庁産業経済部

最上地域の農業水

最上地域にはおよそ16,000 haの水田があります。この水田をうるおすため、先輩たちは大変な努力をしてきました。最上地域全体では2,000ヶ所をこえるほどたくさんの水利施設をつくってきました。これらの施設は、お米の栽培はもちろんですが、生きもののすみかや環境を守る用水など、いろいろな役割を果たしています。

この大切な水利施設をみんなで守り、未来へと引きついで行きたいものです。

中村湿原



白鳥も安心

貴重な動植物が生息しています。

白髭神社



奥の院は白髭沼（湧水池）です。

大久保沢ため池



家族づれでにぎわいます。

北の砂



メダカを守る活動に子供からお年寄までみんなが参加しています。

富田排水機場



道路や田んぼを大雨から守ります。

富田堰



小国川のおゆたちはたくましい。

明戸



清流は魚をそだてます。

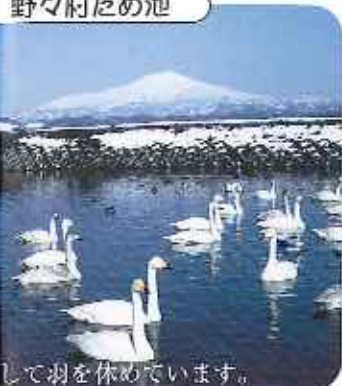
上竹野堰



お魚とのふれあい空間です。

利施設(水辺の風景)

野々村ため池



して湖を休めています。

金山大堰



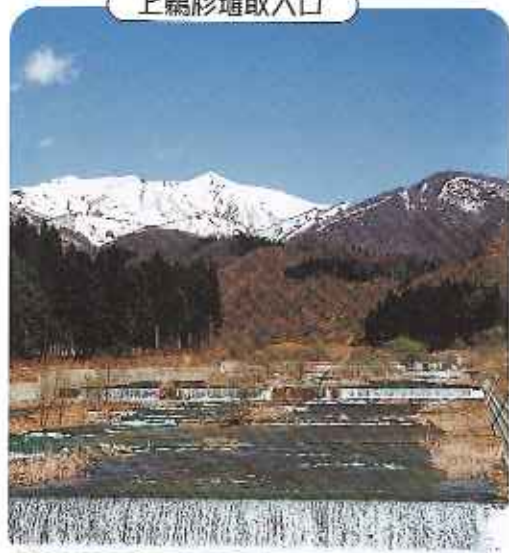
やすらぎの空間です。

帆沢ダム



ボートの練習もできます。

上鷲杉堰取入口



神室連峰からの清流を山んぼに導きます。

赤坂堰



蛍の飛びかう水路です。



温水ため池



冷たい水を温めてから水田をうるおします。

前森高原



いこいの空間を演出します。

小泉ため池



ため池に沈む夕日がまぶしい。

富沢上堰



水を取り入れます。
赤谷温泉の地下を流れて行きます。

大堰頭首工



夏休みの楽しい一コマです。

満沢堰



小さな生き物たちのすみかです。

新庄市街地の

新庄市の市街地は、今から380年ほど前、江戸時代のはじめ、戸沢藩がこの地にお城を構えて以来、最上地域の中心地として栄えてきました。新庄城は、指首野川、升形川、中の川などが天然のお堀の役目を果たしているほか、大清水、焼寺清水、御膳清水などの湧き水も多かったため、ここにお城をつくったといわれています。市街地のまわりには、広々とした田園地帯が広がっていますが、近くの川から取り入れているかんがい用水は、米づくりの他にも、市街地にうるおいをもたらしたり、防火用水や冬には雪を流す用水にも利用されています。市民生活に欠かせない大切な水利施設は、私たちのご先祖様たちが、長い間の努力をつみ重ね、大変な困難をのりこえて現在まで伝えられてきたものです。



大清水



ハリザッコ

新庄市の天然記念物イバブトミコが
生息しています。



焼寺清水

ご先祖様の願いが伝わってきます。



御用水堀

市民のやすらぎの空間です。

升形川

指首野川

新庄城址

御用水堀

国道47号



最上川ライン

美しい風景です。



新庄城址

市民のいこいの場です。



清水揚水機場

新庄盆地に最上川の水を運びます。
消流雪用水に活用する実験が始まりました。



最上川の水はこのトンネルの中を市街地
方向に向かいます。



松本堀

大雨のときは排水路に変身。
洪水から市街地を守ります。

農業水利施設

至横手

国営新庄農業用水分水工



最上川の水を吐き出します。

吉袋堰



市街地を縦横に流れ
市民生活にとけこんでいます。

吉沢ため池



最上地域の田園は美しい。

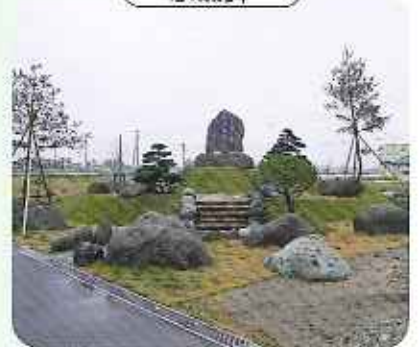
中の川

おけさ沼



伝説の神秘的な沼です。

水魂碑



水と先人の努力に感謝。

国道13号

金沢堰

新田川

駒場頭首工



川の水を取り入れます。

金沢堰



市街地にうるおいをもたらします。
冬は流雪溝として活躍。

雪を流雪溝に流します。

至山形

泉田川

奥羽本線

茶鍛冶堰

桂堰

市役所

新庄駅

松本堰

大規模農業用水施設

お米を作るにはたくさんの水が必要になります。

<10a 当たりでは>

1000㎡×0.02m/日×120日=2400㎡
 田んぼに水が必要な期間はおよそ120日
 田んぼの水は地下にしんとうしたり蒸発
 したりして水深にして1日でおおよそ20mm
 がなくなるとすると→長さ50m幅20m
 深さ1mのプールで約2.4杯分になります。

<ご飯茶碗1杯分では>

米1合(150g)でご飯茶碗2杯とす
 ると240㎡÷(60kg÷0.15kg×2杯)
 ×1000㎡/㎡=300㎡/杯→1箱の
 ペットボトル300本分になります。

田んぼによって
 まちまちですが、
 お米を作るのに必要な
 おおよその水の量を
 計算してみると…

<お米1俵当たりでは>

(一人が消費する約1年分)

田んぼ10aから生産される米の量を
 600kg (=10俵) とすると
 2400㎡÷10俵=240㎡/俵 (60kg)

<最上地域全体では>

一人当りの米の消費量を約60kgとすると、
 平成12年の最上地域の米の生産量は
 70,400トン(約117万俵) ですから、おおよそ
 117万人分の米が生産されたことになります。
 この米を生産するために
 240㎡/俵×117万俵=28,000万㎡
 神宮ダムの貯水量は580万㎡ですから神宮
 ダム約48杯分の水が必要になります。

田んぼに水を引くためにいろいろな施設が作られています。

水をためます



水を取入れます



水を運びます



水を使います



水路を守ります



私たちの先輩たちは数えきれないほどたくさんの水利施設をつくってきました。

水利施設の水源	個所数	備考
川から取り入れている施設の数	約1800	水を使っているという届け出のあるもの
ため池の数	約200	台帳にのっているもの
合計	約2000	

これ以外にも、届出をする必要のない川や溪流から取水しているもの、地下水を利用しているポンプ施設、台帳に登録されていないため池などもたくさんあり、すべてを数えるのがとても難しいほどたくさんの施設があります。かぞえきれないほどたくさんの施設をつくってきた先輩たちの努力には感謝したいものです。

農業や農村には、いろいろな役割があります。

畦(あぜ)により雨水を一時的にたくわえて、洪水や土砂くずれを防止します

水田にたくわえられた水は地下に浸透して地下水となります

ため池(水をためます)

畑も雨水を一時的にたくわえて洪水を防止します

いろいろな生物がすんでいます

美しい自然や風景が訪れた人々に安らぎをあたえます

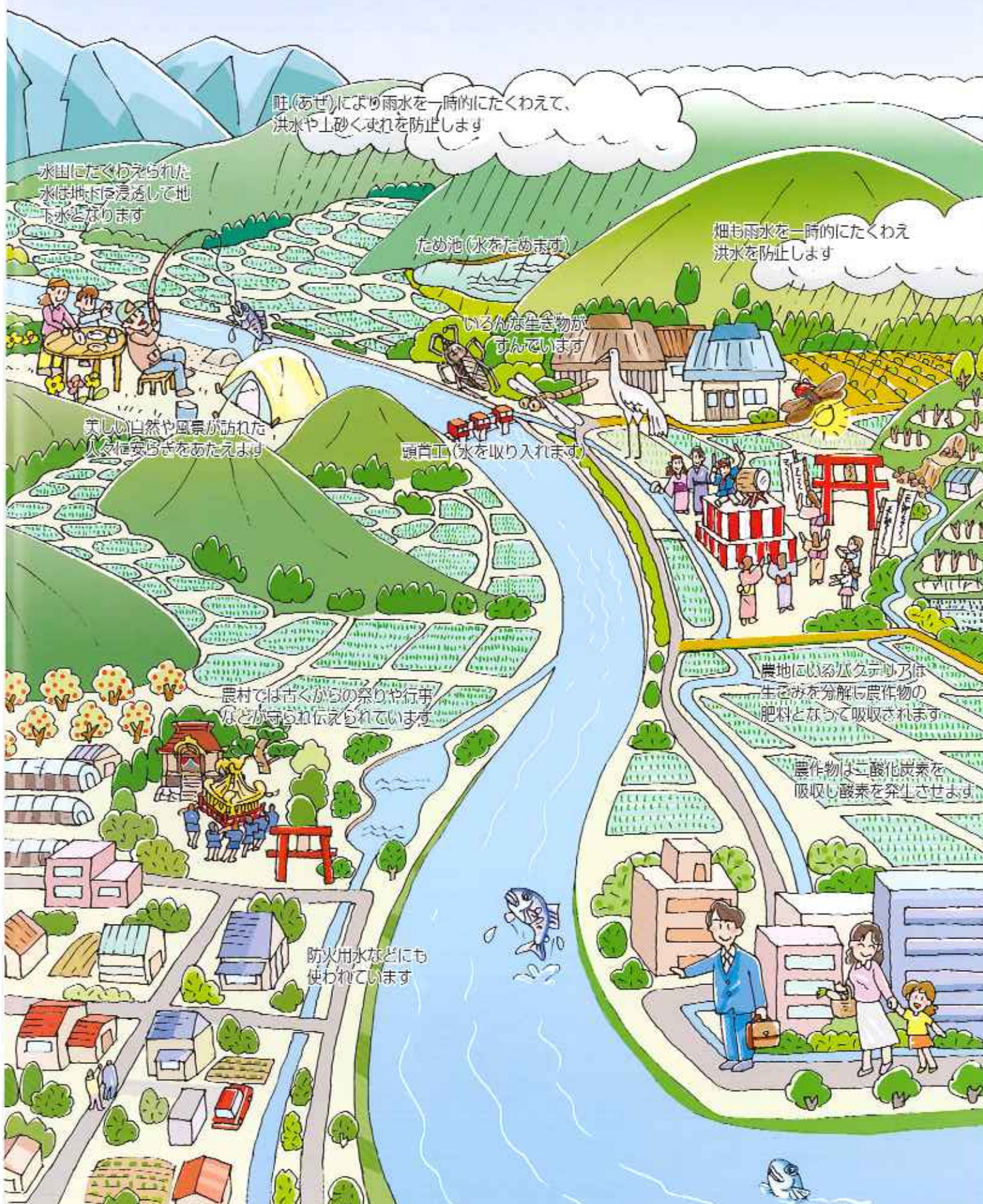
頭首工(水を取り入れます)

農村では古くからの祭りや行事などが守られ伝えられています

農地にいる瓜クワデトリ等は生きみを分解し農作物の肥料となって吸収されます

農作物は二酸化炭素を吸収し酸素を発生させます

防火用水などにも使われています



御用水堰散策

指首野川



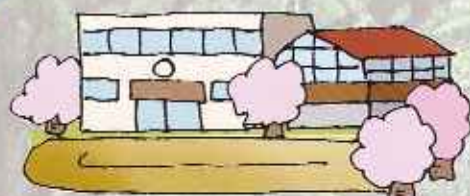
取入れ口



雪の里情報館の裏



新庄中学校のグラウンド



御用水堰は、その名の示すように、新庄城のお堀に水を運び、市街地をめぐり、そしてその下流の水田をうるおしています。江戸時代か、あるいはもっと以前につくられたのか詳しくはわかりませんが、先人がつくった水路は、数百年たった今もしっかりとその役割を果たして、市民生活にとけこんでいます。



新庄城址



市街地をめぐり



水田をうるおします



最上総合支庁産業経済部

農村計画課 〒996-0051 新庄市人字金沢字人道上2034
TEL0233-28-7730 FAX0233-23-0355
農村整備課 〒996-0051 新庄市大字松本412-17
TEL0233-23-4035 FAX0233-23-4785